

THE ZENITH

「BIZENの六人展 一離陸の刻」に寄せて

備前焼は無釉の焼締陶として、中世以来、途切れることなく今日まで焼き続けられて来た。その理由は土にある。備前の土は、六古窯の中でも最も細かい粒子の粘土で、急激な温度の変化に弱いので、時間をかけて徐々に焼成温度を上げてゆかねばならない。

土は山土と田土に大きく分かれるが、なかでも田土はねっとりとした可塑性のある粘土のため、焼き上がりの土味は最高と言われている。それは、現在も変わらない。今回の「BIZENの六人展」は、備前焼の未来を担う六人の作家たちの展覧会である。

石田和也は、備前焼を代表する人間国宝・伊勢崎淳に陶技を学んだ。その伊勢崎の長男・伊勢崎晃一郎は、ニューヨーク在住の陶芸家、ジェフ・シャピロに弟子入りした。近藤正彦は、現代備前のトップ・ランナー・隠崎隆一に陶技を学んだ。瀧川卓馬の師匠・島村光は、備前焼細工物の第一人者である。豊福博は、備前市無形文化財の川端文男に陶技を学んだ。松本優作は伝統の上に斬新さを追及する脇本博之に師事した。六人の師匠が違いうように、その陶芸も六人六様だが、しかし、土に向かう真摯な姿勢は各人共通している。

石田和也は、「自分を軸に環境や出会う相手を意図的に変えることで、自ずと出来上がる作品もあって欲しい」と語る。《Abyss Tea bowl》は備前市の三石にある陶石の鉱山で天然の磁土を調達し、深い蒼を出すために磁土にコバルトを混ぜ、薪窯で焼成したもの。すると、コバルトの蒼と磁土の白と灰被りのグレーが入り混じった新感覚な茶碗が生まれる。

伊勢崎晃一郎は、アメリカに留学し陶芸を始めたことで造形思考がしっかりしていると言ってもいいだろう。《打文壺》は、上に置いた打文の一部に亀裂を作り、その亀裂が口の役目を果たしている。これは従来の壺の口を閉じたかたちのオブジェではなく、立体造形の思考に近い表現となっている。赤褐色の火色もよく、全体に重量感があって、造形的な完成度も高い。

近藤正彦の作品は、ふっくらとした土の膨らみが魅力的だ。《備前水指》は、轆轤で内側から膨らめると自然と曲線が出来る。その自然と出来た曲線を、全体のバランスを見ながら口や腰、蓋などを工夫していくのだという。内部の空気が膨らんでゆく様子が、そのフォルムからも感じられる。師匠の隠崎隆一とは違う、近藤独自の感性である。

瀧川卓馬は、小さな細工物を細部にまでこだわりながら魅力ある作品を制作している。普段、瀧川は土で原型を作り、石膏で型を取り、それを基に制作する。《虎ノ型香合》は、その虎の頭の型を使って香合に仕立てたもの。また《虎ノ威ヲ借ル狐香合》は、入れ子式になっており、虎の姿の外蓋を外すと、狐の姿の内蓋が現れるというユニークなものである。

豊福 博は、師匠の川端文男に原土の表情を土味として表現する自然練込の技法を学んだ。その自然練込の技法を基本に、面と面の組み合わせに工夫を凝らしながら独自の作品を創作している。《自然練込水指》は、口は三角形、胴は五角形で、複雑に平面と平面を組み合わせている。また、胴の平面の一部と三角形の蓋には緋襷が見られる。

松本優作は、「斬新な造形も好きだが、基本的には単純なカタチが好きだ」という。《備前茶盃》は、胡麻を景色によく焼き締まった半筒型の茶碗である。奇を衒わず、「なんとなくいいなと言われるような作品づくりを心掛けています」「古いもの好きです」というこの作家は、作りたい作品の目標がはっきりしているのであろう。

いま「BIZENの六人展」は「守・破・離」の「守」から「破」に向かって自身の表現を展開している。そういう意味では、まさに「離陸の刻（とき）」なのである。それは、古い概念からの離陸という意味だけでなく、日本から海外に飛び立つという意味や、コロナ禍からの再出発という意味をも含んでいる。

森 孝一（美術評論家・日本陶磁協会常任理事）





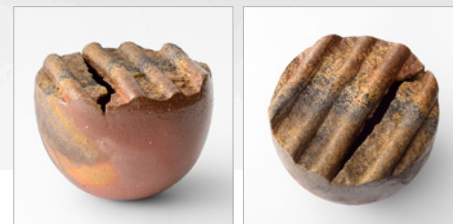
石田和也

Ishida Kazuya

備前で育まれてきたことをどのように表現するか、
素材の特性を自分なりに導き、薪窯でその可能性を無限に増幅させる創造性に触れて頂きながら、
伝統があるからこそそのワクワクを共有していただけますと幸いです。

昭和61年 岡山県備前市に生まれる
平成19年 京都府立陶工高等技術専門校 卒業、備前焼人間国宝 伊勢崎 淳に師事
平成22年 国民文化祭美術展 奨励賞
平成23年 渡英 イギリスの工房で経験を積む
平成25年 帰国 備前に工房を構え独立
平成27年 第58回 日本伝統工芸中国支部展 教育長賞
平成28年 オックスフォード大学（英国）客員教授として招聘される
イギリス各地の大学でレクチャー、ワークショップを開催
平成29年 第68回 岡山県美術展覧会 奨励賞
平成30年 シンポジウム UTSUWA&UTSUSHI ロンドン芸術大学（英国）
令和元年 岡山アワード 作家／クリエイター賞
令和2年 備前市で採掘した磁器土での作品づくりに挑戦する

Abyss Tea bowl
W13.0×D13.0×H9.0cm



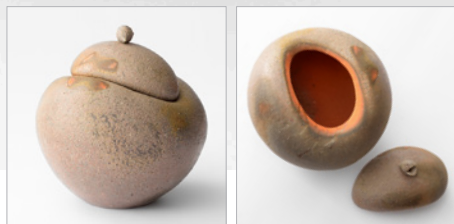
伊勢崎晃一郎

Isezaki Koichiro

土で出来たモノが其処にある
自分で為した末の姿
それでも土が出て来る
そういうモノで在りたい

昭和49年 岡山県備前市伊部に人間国宝 伊勢崎 淳の長男として生まれる
平成8年 東京造形大学 彫刻科 卒業
平成10年 渡米 ニューヨーク在住の陶芸家 ジェフジャビロ氏に師事
平成12年 帰国後、父 伊勢崎 淳に師事
平成21年 第26回 田部美術館 茶の湯の造形展 奨励賞（平成24、28年）
平成22年 第53回 日本伝統工芸中国支部展 日本工芸会賞
平成26年 第15回 福武文化奨励賞
平成30年 伊勢崎晃一郎展（柿傳ギャラリー）
令和2年 伊勢崎晃一郎展 成る（LIXIL ギャラリー、東京）
令和3年 伊勢崎晃一郎展（柿傳ギャラリー）

打文壺
W23.5×D23.5×H18.0cm



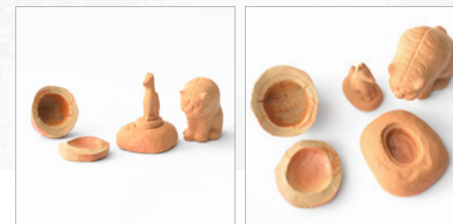
近藤正彦

Kondo Masahiko

六人の個性が、柿傳ギャラリーという空間で、どの様に融合するのか楽しみです。

昭和46年 岡山県倉敷市に生まれる
平成6年 京都市立工業試験場 本科 卒業
平成8年 隠崎隆一に師事
平成9年 第48回 岡山県美術展覧会 奨励賞 (同 平成18、21、22年)
平成13年 第18回 田部美術館大賞「茶の湯の造形」展 入選 (同 平成18、21、22、25、26、28、29、30年、令和2年)
平成17年 第22回 田部美術館大賞「茶の湯の造形」展 奨励賞 (同 平成24年)
第52回 日本伝統工芸展 入選 (同 平成18、19、21、25年)
平成21年 日本工芸会 正会員認定
平成25年 第56回 日本伝統工芸中国支部展 岡山市長賞
平成30年 第69回 岡山県美術展覧会 岡山教育長賞

備前水指
W22.0×D23.0×H20.0cm



瀧川卓馬

Takikawa Takuma

今までお茶道具に関するものを作ってこなかったのが、勉強不足で決まり事など守れていないのではないかと思います。面白がって頂ける方の元に届けば嬉しく思います。

昭和52年 兵庫県に生まれる
平成11年 倉敷芸術科学大学 卒業
平成14年 島村 光氏に師事
平成25年 備前市久々井に工房を構える

[左] 虎ノ型香合 W4.8×D5.2×H4.2cm
[右] 虎ノ威ヲ借ル狐香合 W5.5×D6.4×H8.0cm



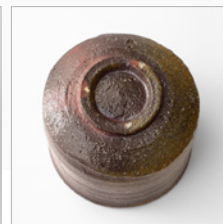
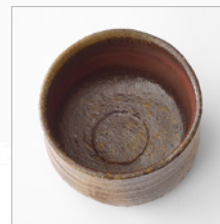
豊福 博

Toyofuku Hiroshi

原土の表情を土味として表現する自然練込の仕事を中心に。
本展が備前焼の今後の可能性を感じていただけるような展示になればと思います。

昭和48年 東京都に生まれる 埼玉県出身
平成8年 国際基督教大学 卒業
平成10年 備前焼作家 川端文男に師事
平成13年 第18回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」奨励賞
平成18年 岡山県和気郡和気町吉田にて独立
平成21年 第26回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」優秀賞（他9回入選）
平成27年 第6回 菊池ビエンナーレ 入選
平成28年 現在形の陶芸 萩対象展Ⅳ 入選、第9回 現代茶陶展 入選（他2回入選）
平成29年 第64回 日本伝統工芸展 入選（他1回入選）
令和元年 第6回 陶美展 奨励賞（他3回入選）
令和3年 第12回 国際陶磁器展美濃 入選

自然練込水指
W17.5×D17.5×H19.0cm



松本優作

Matsumoto Yusaku

この柿傳ギャラリーのグループ展に参加できることを嬉しく思います。
作品についてはどこで使いどのように使われるかを思い作っています。
ギャラリーにお越しくださった方々に観ていただければ、嬉しく思います。

昭和49年 岡山県瀬戸市に生まれる
平成12年 備前陶芸センター 入所
平成13年 備前焼作家 脇本博之に師事
平成18年 陶芸美術館展覧会 優秀賞
平成20年 初窯を出す
平成21年 播磨工芸会賞、陶芸財団展 陶芸大賞、神戸ビエンナーレ 入選
平成22年 第27回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」入選
平成25年 第56回 日本伝統工芸中国支部展 入選（同 平成26、27年）
平成28年 第67回 岡山県美術展覧会 奨励賞

備前茶盃
W11.6×D11.6×H9.0cm

BIZENの六人展 ―離陸の刻―

価格表

会 期 令和3年10月22日(金)～28日(木)
会期中無休

開 廊 時 間 11:00 ～ 19:00
※ 最終日の10月28日(木)は17:00 まで

出 品 作 家 石田和也 10月22日(金)～23日(土)
[在廊予定日] 伊勢崎晃一朗 10月22日(金)～24日(日)
近藤正彦 10月22日(金)～23日(土)
瀧川卓馬 10月26日(火)～27日(水)
豊福 博 10月26日(火)～28日(木)
松本優作 10月24日(日)～25日(月)
(五十音順)
※ 恐れながら、コロナ禍の影響で、変更になる可能性が
ございます。

会 場 柿傳ギャラリー
〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル地下2階
(JR新宿駅 中央東改札より徒歩1分)
TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335
MAIL gallery@kakiden.com
http://www.kakiden.com/gallery



コロナ禍の影響で、会期と営業時間の変更や、オンライン展示のみの可能性もございます。
お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページや公式SNSにて、最新情報をご確認頂ければ助かります。

作家名	作品名		本体価格/円 (税込価格/円)	作品サイズ (cm)
1 石田和也	Abyss Tea bowl [桐箱付・後日]	P4	80,000 (88,000)	W130×D130×H90
2 伊勢崎晃一朗	打文壺 [桐箱付・後日]	P5	180,000 (198,000)	W23.5×D23.5×H180
3 近藤正彦	備前水指 [桐箱付・後日]	P6	160,000 (176,000)	W220×D230×H200
4 瀧川卓馬	虎ノ型香合 [桐箱付・後日]	P7 [左]	20,000 (22,000)	W4.8×D5.2×H4.2
	虎ノ威ヲ借ル狐香合 [桐箱付・後日]	P7 [右]	30,000 (33,000)	W5.5×D6.4×H80
5 豊福 博	自然練込水指 [桐箱付・後日]	P8	100,000 (110,000)	W17.5×D17.5×H190
6 松本優作	備前茶盥 [桐箱付・後日]	P9	70,000 (77,000)	W11.6×D11.6×H90

新宿で大人の道草を。

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY



160-
0022

東京都新宿区新宿 3-37-11

碎ザザン
KAKI DEN GALLERY